

友だちのよいところを見つけよう

校長 関川 紀美子

暦が10月になり、校庭の葉が赤や黄に色づき始めました。日中は汗ばむときもありますが、確実に季節の移り変わりを実感するこの頃です。

先日のマラソン大会には、保護者の皆様、地域の皆様よりご来校いただき、感染対策へのご理解とご協力、そして何よりも子どもたちへの温かな拍手をたくさんいただきました。心より感謝申し上げます。子どもたちは、どれだけ背中をおされたことでしょうか。走ることが得意な子も苦手な子も最後まであきらめない心で、皆様の応援や励ましにも応えようと頑張る姿があり、私自身も子どもたちから感動をもらった時間でした。



昨年2月から始まった新型コロナウイルス感染症対策も、一年半以上続いています。現在は、感染者数の減少傾向にありますが、まだまだ予断を許さない状況です。

「大きな声でおしゃべりができない」「大きな声で元気よく歌えない」「友だちと体をつけて遊べない」など、新しい生活様式での生活は子どもにとってストレスが多いのも事実です。気持ちにゆとりがあるとよいのですが、些細なことで泣いたり、怒ったりのトラブルも学校生活の中で起こります。すべて新型コロナウイルスの影響とは思いませんが、少なからず影響を与えていることは間違いないと思われます。

その中で、少しでも気持ちよく学校生活を送るために、10月は「友だちのよいところを見つけよう」と生活目標を掲げ、取組を行っています。具体的には友だちのよいところを見つけ、そのことをリンゴの絵カードに書きみんなに伝える（大きな木に貼る）というものです。

子どもたちの目に留まるよいところとは、どのようなことなのでしょう。感謝の言葉をかけてもらったこと、困っているときに助けてもらったこと、「すごいね」と褒めてもらったこと、「だいじょうぶ？」と心配してもらったことなど、心が温かくなる優しい言葉やエピソードにあるようです。「温かい言葉、優しい言葉は自然と笑顔になる」「笑顔には笑顔が集まる」とよく聞きます。ウィズコロナの時代だからこそ人のよさを見つけるチャンスととらえて、10月も子どもに軸足を置いた教育活動を状況に応じて推進していきます。保護者の皆様、地域の皆様どうぞ、よろしく願いいたします。

